



子どもが子ども でいられる街に ヤングケアラー



野村議員

日下川新規放水路供用 開始に伴う右岸堤防へ の影響について

問 下流の新居、用石河道掘削を行い水位上昇分は吸収できる。これらができる前に当該掘削が完了しなければいけないと答弁あるも、いまだ掘削は完了していない。現状について問う。

板原市長

12月5日発表の国の補正予算で、仁淀川大橋の上流・下流部浸食対策工事が予算化され施行予定。

問 仁淀川大橋上・下流浸食対策工事が予算化されたことは大きな前進



仁淀川堤防を考える
会長らと国土交通省にて、掘削が完了していない不安が強い旨所長他に要望した。今後の影響と見込みを問う。

板原市長

仁淀川本線の水位も見ながら放水路が調節運営される。



問 ヤングケアラーについて、現状、啓発支援について問う。
横山子育て支援課長
ヤングケアラーとは、家事や家族の世話などを日常的に行うことで負担を抱え、子どもの権利が侵害されている子どもとされている。周囲の大人が理解を高めて存在に気付けるよう、ヤングケアラーの啓発チラシ作成や学校への説明会実施等に取り組む。

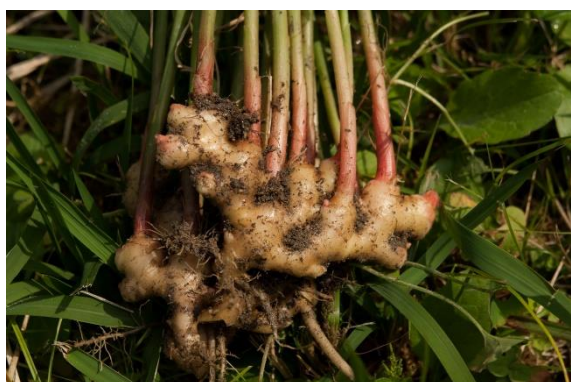
シヨウガ生産者の声 市長の認識それに対し てどうお考えか

問 野菜、シヨウガ等生産者は厳しい状況。丹精こめてつくられた価格は自由競争とはいえ妥当か。現状で農業の持続は可能か。最低価格保障の必要性など疑問多く自分のリサーチ不足を反省する。市長の認識とお考えを問う。

板原市長

農業経営者が置かれている状況は厳しく、支援に国、県とともに全力で取り組む。

問 生産者の声、価格設定のあるべき姿、寡占状態とみなされ、生産者は泣き寝入り、生産者は病気、風水害、



買い付けなどトリプルパンチ。再度問う。
板原市長
農業振興しつかり取り組む。